

氏名(本籍)	牧野由香(滋賀県)
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第78号
学位授与年月日	平成19年3月26日
学位論文題目	小規模多機能ケアにおける看護職と介護職の役割

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	50	(ふりがな) 氏 名	まきのゆか 牧 野 由 香
修士論文題目	小規模多機能ケアにおける看護職と介護職の役割		
<p>【研究目的】 本研究の目的は、小規模多機能ケアにおける看護職および介護職の役割を明らかにすることである。</p> <p>【研究方法】 研究方法は、質的帰納的研究方法を用いた。</p> <p>【研究結果】 小規模多機能ケアを実践しており、本研究に協力が得られた看護職 7 名と介護職 7 名の計 14 名を対象にした。研究方法は、半構成的面接法で行い、質的帰納的に分析した。その結果、看護職の面接で得られた最小単位は 327 コードで、さらに 45 の下位カテゴリーと 14 の中位カテゴリーに分類された。また、介護職の面接で得られた最小単位は 240 コードで、さらに 41 の下位カテゴリーと 14 の中位カテゴリーが分類された。最終的には、看護職および介護職の役割は、それぞれ以下の 5 の上位カテゴリーとなった。 小規模多機能ケアにおける看護職の役割は、【利用者の健康管理】【利用者の主体性を尊重した援助】【医療に関する対外的な関係者との連携】【介護職との協働】【緊急時の迅速な対応】であり、介護職の役割は、【利用者の主体性を尊重した援助】【日常生活を重視した援助】【職者間の協働】【施設の特性を活かした多様な援助】【対外的な関係者との連携】であった。 研究対象施設では、看護職の人員数や勤務時間が少ない中で、上記の役割を担っていた。</p> <p>【考察】 小規模多機能ケアにおける看護職と介護職には、それぞれ専門的な役割と共通する役割があることが明らかになった。 専門的な役割として、看護職は、「利用者の健康管理」「医療に対する対外的な関係者との連携」「緊急時の迅速な対応」など医療的ニーズを重視した対応をしており、他方、介護職は、「施設の特性を活かした多様な援助」で、介護職の「個性」を活かした援助を行っていると考えられる。 また、共通する役割は、「利用者の主体性を尊重した援助」「生活援助の協働」「関係者との連携」であり、利用者の主体性を尊重しながら、看護職と介護職が協働で生活援助を行っていた。 小規模多機能ケアにおいて、看護職は、医療的ニーズに対するプライマリーケアをしているものと思われ、また、このことによって介護職は安定した生活援助が発揮できるものと考えられる。</p> <p>【総括】 以上から、小規模多機能ケアの理念である、利用者を主体とした「個別ケア」を充実させるために、小規模多機能ケアにおける看護職と介護職それぞれの役割が明らかになった。両職種は、各々専門的役割について理解し、互いの役割を尊重しながら、生活援助を協働で行う必要がある。 今後益々高齢者人口は増大し、地域における高齢者ケアの充実が必要となってくる。加齢に伴い、疾病や障害を抱えながらも、高齢者が安心して在宅生活を送れるように、小規模多機能ケアの充実が望まれる。そのためには、施設の人員配置の検討や、職員研修、施設の外部評価制度などが必要であり、今後の介護保険制度の見直しの際に、改善されることが望まれる。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。